

事業所名

わくわくキッズ倶楽部いこいの家 児童発達支援

支援プログラム

作成日

R8 年

1 月

17 日

法人（事業所）理念		たったひとつの命を大切に共に育ち合う。					
支援方針		子ども一人ひとりの発達特性や気持ちを大切に、安心して過ごせる居場所づくりを基本方針とします。遊びや集団活動を通して、生活習慣や社会性、コミュニケーション力の向上を支援します。また、成功体験を積み重ねることで自己肯定感を育み、「できた」「楽しい」と感じられる関わりを重視します。保護者や関係機関と連携し、成長段階に応じた切れ目のない支援を行います。					
営業時間		9 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	健康状態の維持・改善を図り、基本的な生活スキルの獲得や安定した生活リズムの形成を支援します。睡眠・食事・排泄など日常生活に必要な習慣について、一人ひとりの発達段階や特性に応じた関わりや方法を検討します。食を営む力の育成を大切に、感覚特性に配慮しながら、安心して楽しく食事ができるよう支援します。また、咀嚼・嚥下・姿勢保持など身体面にも配慮し、遊びや日常生活の中で無理なく身につくよう、環境設定や関わり方を工夫します。					
	運動・感覚	遊びや運動活動を通して、姿勢保持や身体の使い方、バランス感覚の基礎を育みます。感覚特性に配慮し、安心して身体を動かせる環境の中で、楽しく活動できるよう支援します。理学療法士や作業療法士等の専門職と連携し、発達段階に応じた運動プログラムを実施します。触覚・固有覚・前庭覚などの感覚刺激を無理なく取り入れ、成功体験を重ねることで、身体の調整力や活動への意欲を育てます。					
	認知・行動	一人ひとりの特性に合わせ、理解しやすい方法や環境設定を工夫し、安心して活動に取り組めるよう支援します。視覚支援や構造化を用い、「着席する」「大人を見る」「指示を聞く」など課題に向かう基本姿勢を育てます。少し苦手なことにも無理なく挑戦できるよう配慮し、達成感や成功体験を積み重ねることで、「楽しい」「できた」と感じられる関わりや活動内容を工夫します。					
	言語 コミュニケーション	一人ひとりの発達段階や特性に応じ、言葉の理解や表出、やりとりの基礎を育てます。視覚支援や分かりやすい言葉かけを用い、指示理解や語彙の獲得を支援します。「要求」「伝える」「聴く」「まねる」などの経験を大切に、遊びや日常生活の中で実践的に学びます。言葉だけでなく、ジェスチャーやカード等、子どもに合った手段を用いながら、安心して伝え合える経験を積み重ね、コミュニケーションへの意欲を育てます。					
	人間関係 社会性	ソーシャルスキルトレーニングを通して、「順番を待つ」「交代する」「簡単なルールを守る」など、集団生活の基礎となる力を育てます。遊びや日常場面の中で、「気持ちに気付く」「気持ちを言葉にする」経験を大切に、感情表現や気持ちの切り替えを支援します。気持ちが不安定な時には、子どものペースに合わせて関わり、安心できる方法で気持ちを発散できるよう支援します。小集団での活動を通して、友だちと関わる楽しさや協力する経験を積み重ねます。					
家族支援		定期的な保護者面談や連絡帳を通して、子育てに関する悩みや不安の相談支援を行います。日々の様子を共有し、家庭と連携した支援につなげます。また、公認心理師による巡回相談を実施し、専門的な助言を行います。		移行支援		就学等の環境変化を見据え、集団生活に必要な生活習慣や対人関係スキルの獲得を支援する。保護者や関係機関と連携し、特性や支援方法を共有し、安心して次の生活の場へ移行できるよう支援します。	
地域支援・地域連携		地域資源を活用し、関係機関や地域住民と連携を図りながら、子どもが安心して地域で生活・成長できるよう、継続的な支援体制の構築を行います。		職員の質の向上		社会福祉協議会等の研修参加や法人内研修を通して専門性の向上を図ります。あわせて事業所間で情報共有を行い、支援内容の改善や職員全体の支援力向上につなげます。	
主な行事等		サッカー教室・運動教室・季節のイベント（夏祭り、ハロウィン、クリスマス等）・サッカー大会（年2回） 課外活動（動物園、水族館等公共の施設・市電、JR等の乗車体験） 保護者参観・親子体操等					